

遠野が一年で最も光り輝く瞬間。



特集  
日本のふるさと

# 遠野まつり



1\_歌と舞、太鼓による幻想的なオープニング 2\_各神楽団体の猿田彦を先頭にパレードは始まった 3・4\_町方の芸能「南部ばやし」は、華やかな舞で観客を魅了 5\_力強いみこしが祭りを盛り上げる 6\_「福幸」と記された2万個のもちが南部ばやしの囃子屋台からまかれ、会場はにぎわった 7・8・9\_郷土芸能の未来の担い手である子どもたち。かわいらしい舞と踊りで観客を笑顔にした 10\_しし踊り団体が集結し、大群舞を披露 11・12\_今年は、蔵の道広場で夜神楽を初開催。市青年団体協議会と成人式実行委員会が作成した絵灯籠が、幻想的な雰囲気醸し出した 13・14・15\_夜遅くまで郷土芸能共演会が繰り広げられた



市民総出の晴れの舞台「日本のふるさと遠野まつり」(同実行委員会主催)は9月20・21の両日、遠野駅前通り周辺と遠野郷八幡宮境内で行われた。遠野が一年の中で最も光り輝く瞬間を追った。

地域で大切に継承されている郷土芸能が一堂に会する「日本のふるさと遠野まつり」。今年は市内団体参加数としては過去最多の64団体延べ9千5百人が参加した。運営ボランティアや各団体の参加に陰ながら協力した人を含めれば、祭りに携わった人は数えきれない。市全体で取り組み、伝統文化の継承や郷土愛の醸成につなげている祭りは全国的にも珍しく、昨年は「ふるさとイベント大賞」で奨励賞を受賞。今年から遠野郷八幡宮との合同開催が復活し、魅力はさらに高まった。

初日は市街地を中心に行われ、幻想的なオープニングに続き、パレードやしし踊りの大群舞、夜神楽などが行われた。2日目は遠野郷八幡宮の境内に会場を移し、やぶさめや馬場巡りを開催。訪れた約2万2千人は、遠野が光輝く瞬間に目を奪われた。

